

別紙様式1

倫 理 審 査 申 請 書

令和 2 年 3 月 9 日
修正 令和 3 年 12 月 8 日
修正 令和 4 年 4 月 8 日

国立大学法人千葉大学総合安全衛生管理機構及び千葉大学フロンティア医工学センター
研究倫理審査委員会委員長 殿

申請者(実施責任者)
所属 予防医学センター
職名 教授
氏名 櫻井 健一

受付番号29-09

1 審査対象	実施計画 の 変更 (研究体制の変更)		
2 課題名	定期健康診断にて尿糖陽性を示す大学生における糖代謝指標および1型糖尿病関連自己抗体陽性率の現状に関する調査		
3 実施責任者	所属 予防医学センター	職名 教授	氏名 櫻井 健一
4 実施担当者	所属 総合安全衛生管理機構	職名 教授	氏名 櫻井 健一
	所属 総合安全衛生管理機構	職名 教授	氏名 潤間 励子
	所属 総合安全衛生管理機構	職名 助教	氏名 林 愛子
5 個人識別情報管理者	所属 総合安全衛生管理機構	職名 看護師	氏名 生稲直美
6 研究等の概要	千葉大学学生の定期健康診断において尿糖陽性となった学生における耐糖能と1型糖尿病に関連する自己抗体の陽性率を明らかにする。健診にて尿糖が陽性となった学生を対象とし、血液を採取後血糖の指標であるグリコアルブミン および1型糖尿病に関連する自己抗体である抗GAD抗体を測定する。 これにより、健診における尿糖の意義および1型糖尿病の早期発見法の確立を目指すことが目標である。		
7 研究等の対象及び実施場所	千葉大学に在籍し定期学生健康診断で尿糖が陽性となった学生 目標参加者数 300名 データ解析場所 千葉大学総合安全衛生管理機構および予防医学センター		
8 研究等実施予定期間	2020 年 委員会承認後 から 2025年 3月末日まで 2020年3月に承認を得たが、その後COVID-19パンデミックにより、健康診断の検査項目が一時的に変更され、研究対象者のリクルートが不可能になった。次年度から健診項目が従前の項目に戻る事となったため、2020年年度、2021年度分の2年間の延長を御承認頂きたい。		

9 研究等における倫理的配慮について

(1) 研究等の対象となる個人の人權の擁護：本研究では、世界医師会による「ヘルシンキ宣言」及び文部科学省及び厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守する。個人情報の保護については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」を遵守する。

(2) 対象者に理解を求め同意を得る方法：研究協力について文書による同意を得る。看護師より本研究の目的、方法などについて文書を用いて説明する。

(3) 研究等によって生じる個人への不利益及び危険性：被験者から10mlの研究用採血を行うが、健康上問題ない量であると考えられる。万が一、採血時に気分が悪くなった被験者については、すぐに採血を中止し、担当医師が適切な対応を取る。

(4) 学問上の貢献の予測 本研究では、大学生の定期健診にて尿糖陽性を示した学生における耐糖能および抗GAD抗体陽性率が明らかとなれば、1型糖尿病の早期発見方法の確立に寄与するものと考えられる。

(5) その他

本研究における血液検査の費用については予防医学センターの研究費にて負担をするため、研究対象者の費用負担はない。謝礼は支払わない。本研究に関連した利益相反はない。
添付書類：研究計画書（原本）、同意説明文書

*通知年月日

*通知番号

注意事項 1 審査対象は被該当部分を消してください。

2 審査対象となる研究計画書、インフォームド・コンセントの説明書及び同意書を添付してください。

研究課題名：

「定期健康診断にて尿糖陽性を示す大学生における糖代謝指標および 1 型糖尿病関連自己抗体陽性率の現状に関する調査」

- 研究代表者：櫻井健一
- 千葉大学・予防医学センター、千葉市中央区亥鼻 1-8-1、内線 5073、FAX 5075
- E-mail: sakuraik@faculty.chiba-u.jp
- 研究実施予定期間 委員会承認後より 2025 年 3 月 31 日

○ 作成日・承認日・改訂日：

2020 年 1 月 20 日	計画書案	第 1 版作成
2020 年 2 月 9 日	計画書案	第 2 版作成
2021 年 12 月 8 日	計画書案	第 3 版作成
2022 年 4 月 8 日	計画書案	第 4 版作成

1. 研究の背景

1 型糖尿病は膵臓からのインスリン分泌が枯渇し、治療のためおよび生命維持のために終生インスリン注射を必要とする疾患である。発症メカニズムとしては自己免疫機序による膵ランゲルハンス島の β 細胞の破壊である。通常、発症・診断時点では膵 β 細胞はほぼ消失しており、インスリン分泌能の回復は困難である。その診断は、血中インスリンあるいは C ペプチドの測定によるインスリン分泌能の低下（枯渇）および膵島自己抗体の存在によりなされる。膵島自己抗体には、膵島細胞抗体 (ICA)、インスリン自己抗体 (IAA)、抗グルタミン酸脱炭酸酵素 65 抗体（抗 GAD 抗体）、インスリンノーマ関連蛋白・IA-2 抗体 (IA-2 抗体)、陽イオン輸送体 ZnT8 (Slc30A8) 抗体 (ZnT8 抗体) の存在が診断に用いられている。抗 GAD 抗体は、現在日常臨床において 1 型糖尿病の診断、発症予知に最も広く使用されている有用な自己抗体であり、5 歳未満の小児を除けば、成人においても小児においても高い陽性率を示す (1)。

1 型糖尿病の発症様式には、劇症、急性発症、緩徐進行の 3 つのタイプが存在する。劇症 1 型糖尿病は疾患の発症から完全な内因性インスリンの枯渇までの期間が極めて短く、数日以内のことも少なくない。急性発症 1 型糖尿病は小児や若年者に多く認められ、糖尿病症状の発生から診断までの期間が数日から数週間と短く急性発症の様式をとる。しかし、日本における学校健診などのデータから、診断の前から尿糖を示すなどの耐糖能低下を示す徴候が認められる症例も報告されている (2, 3)。このような時期であれば内因性インスリン分泌が枯渇する前と考えられる。

近年、海外では 1 型糖尿病の発症予防の試みがなされており、その有効性を示すデータが報告されている (4)。これらの研究では、1 型糖尿病患者の兄弟を対象としている。しかし、1 型糖尿病の兄弟を有さない患者も多い。今後の 1 型糖尿病予防を考える上では、一般集団を対象とした効率的なスクリーニングの開発が望まれる。

千葉大学総合安全衛生管理機構では医学部附属病院糖尿病・代謝・内分泌内科と共同で学生健診での尿糖陽性者の精密耐糖能評価を行い、その際に膵島自己抗体の測定も行った結果を報告している (5)。その結果では、精密耐糖能評価を行った者について、17% に軽度耐糖能異常を認めた。さらに、この中から 2 名の膵島自己抗体陽性者（約 100 人に 1 人の割合）が存在し、自己抗体陽性判明後の時期は一定しないが彼らは 1 型糖尿病を発症している。通常、日本人若年集団における 1 型糖尿病の発症率が 10 万人・年に 1 人ということを見ると、高率であると考えられる。尿糖陽性者を対象とした 1 型糖尿病のスクリーニングが発症前の 1 型糖尿病の抽出に有用である可能性が示唆される。しかしながら、現状ではサンプルサイズが小さく十分に調査がなされたとは言い難い。

2. 研究の目的および意義

本研究では、大学生の定期健診にて尿糖陽性を示した学生における耐糖能および抗 GAD 抗体陽性率を明らかにすることを目的とする。大学を含め学校健診において行われる尿糖検査では一次健診陽性者に対し、二次健診として再度尿糖検査を空腹時の尿検体を用いて行うことが多い。しかしながら、軽度の耐糖能障害では空腹時血糖の上昇を認めず食後のみ血糖値の上昇を認めることからこの方法では軽度の耐糖能障害を見逃すことになる。また、学校健診での尿糖陽性者から数ヶ月後に 1 型糖尿病を発症する症例も認められることから、尿糖陽性者において抗 GAD 抗体を測定し陽性者を検出することは今後開発が見込まれる 1 型糖尿病予防治療の対象者の抽出にも繋がる。

3. 研究対象者の選定

(1) 選択基準：

千葉大学定期学生健診を受診した者。

健診にて尿糖陽性（試験紙法にて+以上）を示した者のうち本研究への参加に同意した者。健診対象学生は、

学部学生および大学院生（正規生）とする。

（２）除外基準：

以下のいずれかに抵触する患者は本研究に組み入れないこととする。

- 糖尿病治療中の者、副腎皮質ステロイド、ジアゾキサイドなど耐糖能に影響を与える薬物を服用中の者
- 過去に本研究に参加した者

4. 研究の方法および研究の科学的合理性の根拠

観察研究デザイン

〔A. データ取得の向き〕

- ・前向き（研究開始以降に発生するデータを取得する）

〔B1. 横断的研究の場合 関心のある要因（曝露）とアウトカムを一時点で観察する〕

- ・記述統計学的研究

方法

- ・被験者登録

健診にて尿糖陽性を示した学生に紙面を用いて本研究の目的および方法を説明する。同意を得られた場合、同意書に署名をしてもらった上で本研究への登録をする。

観察・検査・調査・報告項目とスケジュール

- (1) 参加者背景：性別、年齢、身長、体重、現病歴、既往歴（健康診断 Web 問診項目）、家族歴
- (2) 自他覚症状の確認：（健康診断 Web 問診項目）、
- (3) 血液生化学検査：グリコアルブミン（サンリツ）
- (4) 膵島自己抗体検査：抗 GAD 抗体（サンリツ）
- (5) 尿検査：尿糖（健康診断検査項目）

研究スケジュール

項目	研究開始時		研究終了時
時期	健診当日		1-4 週間後
スクリーニング尿検査	○		
患者背景の確認	○		
自他覚症状の確認	○		
同意取得	○		
血液生化学検査	○		
膵島自己抗体検査	○		
結果説明			○*

* グリコアルブミンおよび抗 GAD 抗体の結果は総合安全衛生管理機構にて医師から説明をする。

解析の概要

・本研究は、学生健診での尿糖陽性者における耐糖能（グリコアルブミン）の実態および抗 GAD 抗体陽性者の頻度を調査する者であり、記述統計により結果を表記する。

グリコアルブミンは 15.6% 以上 16.5% 未満を正常高値域、16.5%以上 18.3%未満を境域、18.3% 以上を

糖尿病域とし、それぞれの頻度を記述する。

抗 GAD 抗体は 5.0U/ml 以上を陽性とし、その頻度を記述する。

5. 研究実施期間

- 1) 被験者登録期間：2020 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日
- 2) 被験者観察期間：2020 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日
- 3) 研究実施期間：2020 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日
- 4) 毎年、年次報告を提出する

6. 予期される利益と不利益

利益：

本研究によりグリコアルブミンの測定により被験者が自身の耐糖能の現状を知ることができる。その結果、早期の治療開始が可能となる。また、抗 GAD 抗体陽性が判明した場合、専門医への紹介による早期介入が可能となる。

不利益：

被験者から 10ml の研究用採血を行うが、健康上問題ない量であると考えられる。

万が一、採血時に気分が悪くなった被験者については、すぐに採血を中止し、担当医師が適切な対応を取る。

7. インフォームド・コンセントを受ける手続き

インフォームドコンセントは倫理審査委員会で承認の得られた同意説明文書を対象者に渡し、文書および口頭による十分な説明を行い、対象者の自由意思による同意を文書で得る。

8. 研究対象者に緊急かつ明白な危機が生じている状況における研究の取り扱い

本研究は通常の健診において行われるものであり、緊急かつ明白な危機が生じる状況は想定し難い。万が一そのような状況となった場合は、健診業務遂行のマニュアルに従い適切に対処する。

9. 健康被害発生時の対処方法

本研究は、被験者に介入を行う研究ではないため、研究による健康被害の発生は原則としてないものと考えており、特別な補償は設けない。

被験者から 10ml の研究用採血を行うので、通常よりも採血の量が増えるが健康上問題ない量であると考ええる。

万が一、採血時に気分が悪くなった被験者については、すぐに採血を中止し、担当医師が適切な対応を取る。

10. 個人情報の保護方法

個人情報を含む情報を保護するため、検査結果等は「倫理指針」に定められた方法にしたがって、個人情報管理者により連結不可能匿名化する。個人情報の管理には、外部のネットワークと接続されていないコンピューターを用いることとし、その情報は外部記憶装置に暗号化を施した状態で保存して、個人情報分担管理者がその保管場所に厳重に保管するものとする。個人情報管理者には千葉大学総合安全衛生管理機構 生稲直美がその任にあたるものとする。同意撤回後のデータの取り扱いについては、参加者が同意撤回する際に、現在までに収集したすべてのデータを含め削除を求める場合はすべてのデータを破棄する。

11. 研究資金および利益相反

本研究は、奨学寄付金等を用いて遂行する。

奨学寄付金の提供者は、日本イーライリリー株式会社および第一三共株式会社である。奨学寄付金の提供者は研究の企画、運営、解析、論文執筆に関与しない。

1 2. 試料・情報の2次利用および他研究機関への提供の可能性

試料及び情報の2次利用および他研究機関への提供は想定していない。

1 3. 研究組織

- ◆ 研究機関：千葉大学予防医学センター、総合安全衛生管理機構

研究組織と役割分担

千葉大学予防医学センター（内線 3896）

教授	○櫻井健一	本研究の管理と遂行の総責任、データ解析。
特任研究員	渡邊応宏	データ解析

千葉大学 総合安全衛生管理機構（内線 2215）

教授	潤間励子	プロトコール作成、本研究の管理と遂行
助教	林愛子	本研究の管理と遂行
看護師	吉田智子	研究対象者への説明と同意の取得
看護師	生稲直美	研究対象者への説明と同意の取得
看護師	岩倉かおり	研究対象者への説明と同意の取得
看護師	田中敦子	研究対象者への説明と同意の取得
看護師	永岡沙季子	研究対象者への説明と同意の取得
臨床検査技師	寺山多栄子	スクリーニング尿検査の実施（学生健診時）

1 4. 記録等の保管

（1）試験等に係る文書等の保管

参加者の情報の原本については、総合安全衛生管理機構内の鍵のかかる部屋で保管する。参加者情報は電子データ化され、各データは総合安全衛生管理機構内のコンピュータ内に個人情報と切り離れた状態で研究終了後 10 年間保管される。保管期間終了後、電子データはコンピュータ内から消去する。

（2）試験等に係る試料の保管

血液等の試料については保管をしない。

1 5. 研究成果の発表方法

本研究で得られた結果は、学会発表および学術論文として公表する。研究成果発表の際、個人が識別できる情報は発表内容に含まない。

1 6. 研究対象者等の経済的負担又は謝礼

本研究に要する検査費用はすべて研究費を用いるため、対象者に経済的な負担は生じない。

1 7. 参考資料・文献リスト

- 丸山 太郎 東 宏一郎 1 型糖尿病関連自己抗体 糖尿病 52(8):675~677, 2009

2. 河野 斉 学校検尿による糖尿病検診、10 年間の検討 平成 11 年度厚生科学研究・子ども家庭総合研究事業 「小児糖尿病・生活習慣病の発症要因、治療、予防に関する研究」研究協力者研究報告書
3. 澁谷麻由美, 広瀬 寛, 當仲 香, 高山 昌子, 松本 可愛, 佐藤幸美子, 戸田 寛子, 堂坂 愛田立暁子, 高橋 綾, 小坂 桃子, 太田麻紀子, 神田 武志, 横山 裕一, 森 正明, 河邊 博史 大学生健康診断における尿糖陽性者への対応の検討 慶應保健研究 32(1): 071 – 074, 2014
4. Herold KC, Bundy BN, Long SA, Bluestone JA, DiMeglio LA, Dufort MJ, Gitelman SE, Gottlieb PA, Krischer JP, Linsley PS, Marks JB, Moore W, Moran A, Rodriguez H, Russell WE, Schatz D, Skyler JS, Tsalikian E, Wherrett DK, Ziegler AG, Greenbaum CJ; Type 1 Diabetes TrialNet Study Group. An Anti-CD3 Antibody, Teplizumab, in Relatives at Risk for Type 1 Diabetes. N Engl J Med 381(7):603-613, 2019
5. 齋藤 佳子, 潤間 励子, 今井 千恵, 生稻 直美, 齊川 郁子, 吉田 智子, 鍋田 満代, 千勝 浩美, 藤本 浩司, 大溪 俊幸, 三木 隆司, 今関 文夫 大学生健診尿糖陽性者の耐糖能とその対応に関する検討 CAMPUS HEALTH 51(2): 93-97, 2014

「定期健康診断にて尿糖陽性を示す大学生における糖代謝指標および 1 型糖尿病関連自己抗体陽性率の現状に関する調査」

千葉大学予防医学センター

千葉大学総合安全衛生管理機構

「定期健康診断にて尿糖陽性を示す大学生における糖代謝指標および 1 型糖尿病関連自己抗体陽性率の現状に関する調査」について

この調査は、大学生の定期健診にて尿糖陽性を示した学生における耐糖能および 1 型糖尿病の指標である膵島関連自己抗体（抗 GAD 抗体）の陽性率を明らかにすることを目的としています。1 型糖尿病の予防につながる研究です。ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

この調査は、次のような方にご協力をお願いいたします。

- 定期健診で尿糖が陽性となった方

調査に参加していただける方は、同意書に署名をお願いいたします。

この説明書には、調査のくわしい内容が書かれています。説明書を読んでわからないことがありましたら、お気軽にお問い合わせください（連絡先は最終ページに記載してあります）。

研究題名：定期健康診断にて尿糖陽性を示す大学生における糖代謝指標および 1 型糖尿病関連自己抗体陽性率の現状に関する調査

研究実施責任者： 千葉大学予防医学センター 教授

櫻井 健一

共同研究施設代表者： 千葉大学総合安全衛生管理機構 教授

潤間 励子

この調査は、参加する方の人権侵害や倫理的な問題が起こらないように配慮して計画を立てており、千葉大学の倫理審査委員会の審査を受け、承認されています。

1 調査の目的

この調査は、大学生の定期健診にて尿糖陽性を示した学生における耐糖能および1型糖尿病の指標である膵島関連自己抗体（抗GAD抗体）の陽性率を明らかにし、1型糖尿病の予防に役立てることをめざします。

1型糖尿病は膵臓からのインスリン分泌が枯渇し、治療のためおよび生命維持のために終生インスリン注射を必要とする疾患です。インスリンを合成分泌する膵ランゲルハンス島の β 細胞が自己免疫機序により破壊されることによって発症します。通常、発症・診断時点では膵 β 細胞はほぼ消失しており、インスリン分泌能の回復は困難です。その診断は、血中インスリンあるいはCペプチドの測定によるインスリン分泌能の低下（枯渇）および膵島自己抗体の存在によりなされる。しかしながら、海外において1型糖尿病の発症予防（治療）の試みがなされており、近年その有効性を示すデータが報告されています。1型糖尿病の発症予防法が確立された際には、予防の対象となる方を抽出する必要があります。

千葉大学では過去に定期健診で尿糖陽性となった学生の精密検査を医学部附属病院で行なっていました。その際、抗GAD抗体を測定していましたが、この期間で2人の学生が抗GAD抗体陽性であり、両名とも1型糖尿病を発症しました。この経験から、尿糖陽性を示す方の中には1型糖尿病を発症する前段階の方が含まれている可能性があると考えました。しかし、現在までの結果では検査を行った人数が少なく十分に明らかになったとはいえません。

そこで、この調査では学生健診で尿糖陽性となった方を対象として、1型糖尿病の指標である抗GAD抗体が陽性となる頻度を詳細に検討することを目的とします。この結果は今後可能となる1型糖尿病の予防戦略上、極めて重要な結果になると考えられます。

2 調査の内容

ご協力いただきたい内容

- ① アンケート：身長、体重、年齢、性別、現在および過去のご病気、ご家族の糖尿病の有無などをお聞きします。
- ② 採血：耐糖能（血糖値を下げる力）と抗GAD抗体（血糖を下げるインスリンの分泌をする細胞を破壊する自己抗体）を調べるために採血させていただきます。

調査スケジュール

項目	スクリーニング時		終了時
時期	健診当日		採血後 1-4 週間後
患者背景の確認	○		
自覚症状の確認	○		
同意取得	○		
血液（10 ml）	○		
結果説明			○

この調査で調べること

血液：耐糖能（血糖値を下げる力）の指標としてグリコアルブミン と膵島関連自己抗体として抗 GAD 抗体（血糖を下げるインスリンの分泌をする細胞を破壊する自己抗体）を調べます。

研究予定期間

2020 年 4 月～2025 年 3 月 31 日

3 費用について

参加者のみなさまに研究費用の負担をお願いすることはありません

研究にかかる費用は研究者が負担しますので、みなさまに費用の負担をお願いすることはありません。

4 個人情報の保護について

個人情報は、外部に漏れることのないよう厳重に管理します。

ご提供いただいた血液などの試料とアンケートなどのデータは、氏名などの個人情報を削除して、代わりに新しい番号をつけて管理します。これによって、データを分析する研究者には、誰のデータを扱っているかわからないようになっています。

5 結果の返却について

グリコアルブミン および抗 GAD 抗体の結果は、個別にお返しします。

6 研究成果の公表について

研究成果は学会などで発表します

この研究により、医学の発展に役立つ新しい研究成果が得られた場合には、学会や学術誌などで発表します。このとき、協力していただいた方々の氏名は公表いたしません。

7 提供していただいた試料の保管と利用について

研究のために採取した尿・血液は、説明した検査終了後速やかに廃棄し、他の目的で使用されることはありません。

8 参加と取り消しの自由について

調査への参加は自由です

この調査に参加するかどうかはみなさまの意志で自由にお決めください。参加しなくても不利益を受けることは一切ありません。

参加した後でも取り消すことができます。

参加を取り消したい場合は、同意書控えと一緒にお渡しする「同意撤回書」に署名と必要事項を記入して、お送りください。

データの廃棄を希望される場合は、同意撤回書の記入欄に記入いただければ廃棄いたします。ただし、そのデータを利用した研究成果が論文などで公表されている場合など、データを廃棄できないことがあります。

9 参加した場合の利益と不利益について

今回の検査により、みなさま自身が現在糖尿病となっているかどうかを知ることができます。また、このような研究を積み重ねることにより、1 型糖尿病を早期発見する方法が見つかる可能性があります。しかし、こちらは長期間にわたる研究の蓄積が必要なため、みなさまに役立つような情報がすぐに得られることはありません。一方、みなさま自身が抗体陽性となった場合、早期に医療

につなげることができます。

危害の可能性について

通常の健診に加えて、10ml を採血します。多少痛みがあり、気分不快が生じることがありますが、特に健康上の問題はありません。万が一、採血時に気分が悪くなった場合は、すぐに採血を中止し、担当医師が適切な対応を取ります。

情報漏えいの危険について

みなさまに関する情報が漏えいする可能性が全くないとは言えませんが、そのような危険がないようにデータは匿名で扱い、情報管理者が厳重に管理します。

研究終了後には、個人情報を持定できるデータは厳重な管理のもとで廃棄します。

特許権について

この研究の結果、特許権が生じることがありますが、その権利は研究機関に属し、参加していた方には属しません。

10 ご連絡・お問い合わせ先

千葉大学予防医学センター 担当 櫻井 健一（教授）

電話 043-290-3920

千葉大学総合安全衛生管理機構 担当 潤間 励子（教授）

電話 043-290-2214 （ナース室）

メール info-hsc@office.chiba-u.jp

（電話については 9:00～17:00 お盆、年末年始、土日曜・祝日を除く）

同意書

千葉大学総合安全衛生管理機構長 殿

千葉大学予防医学センター長 殿

私は「定期健康診断にて尿糖陽性を示す大学生における糖代謝指標および1型糖尿病関連自己抗体陽性率の現状に関する調査」について、目的、方法等に関する以下の説明を文書および口頭により受け、内容について十分理解し、下記の項目を了承しました。この書面をもって、研究に参加することを自由意志で決定したことを示すものとします。

説明を受け理解した項目（□の中にご自分でチェックをつけてください。）

- ☐ 調査の目的
- ☐ 調査の内容
- ☐ 参加される方の利益、不利益とその対応について
- ☐ 費用について
- ☐ 検査の結果の返却について
- ☐ 個人情報の保護について
- ☐ 試料（血液）と測定データの保管について
- ☐ 研究成果の公表について
- ☐ 調査協力の任意性、撤回の自由及び撤回時の得られたデータの取り扱い
- ☐ お問い合わせ先

（下記のどちらかを○で囲んでください）

■本調査についての説明を受けて、内容を理解しましたので、

調査に参加することに [同意します ・ 同意しません]

（①と②のどちらか1つを選んで○をつけてください）

①☐ データを、将来計画される他の研究に利用することに同意します。

②☐ データを他の研究に使わないでください。

参加者署名 _____

西暦 20 年 月 日

説明担当者署名 _____

西暦 20 年 月 日

定期健康診断にて尿糖陽性を示す大学生における糖代謝指標および1型糖尿病関連自己抗体陽性率の
現状に関する調査

同意撤回書

千葉大学総合安全衛生管理機構長 殿
千葉大学予防医学センター長 殿

西暦 20 年 月 日

私は、本研究への以下の項目に関する同意を撤回します。
データの使用、保存を中止してください。

請求者の署名：_____

※ データ廃棄の終了をお知らせするハガキの送付をご希望の方は、以下へご住所の記入をお願いいたします。

ご住所：〒

【送付先】

千葉大学予防医学センター 櫻井健一
住 所：〒264 - 8522 千葉市稲毛区弥生町1 - 33
千葉大学工学系総合研究棟1 7階